

第2学年 算数科学習指導案

日 時 平成24年11月2日(金) 5校時
児 童 男 9名 女 10名 計19名
指導者 琵琶坂 美津子

1 単元名「新しい計算を考えよう」

(東京書籍 「新しい算数2」下 p 2～p 28)

2 単元について

(1) 教材について

本単元は、学習指導要領第2学年の内容A 数と計算(3)「乗法の意味について理解し、それを用いることができるようにする」を受けて設定されたものであり、「乗法の意味について理解し、それをできるようにする」をねらいとしている。

これまでに児童は、第1学年の第6単元「10よりおおきいかず」では、2とび5とびで総数を求めたり、第16単元「20よりおおきいかず」では、10のまとまりを作りその数を数えて総数を求めたりするなど、具体的な活動を通して、同じ数のまとまりの個数を数えてものの総数を求めるといった乗法の素地的な経験をしてきている。

本単元では、乗法が用いられる場面を通して、乗法の意味を理解できるようになることを指導する。また、この意味に基づいて乗法九九を身に付けるように指導し、獲得した乗法を生活や学習の中で活用できるようにすることが大切であると考える。

(2) 児童の実態

児童は、本単元のような「数と計算」の学習に意欲的に取り組み、計算とブロック操作を対比させながら思考するようになってきた。

今年度行った算数の学習についての意識調査の結果は、「既習の活用に関する意識」が肯定的回答の児童は、95%だった。また、「学び合いに関する意識」が肯定的回答の児童も、95%だった。しかし、立式の意味について言葉で説明したり、算数用語を的確に使ったりして説明できる児童は少ない。

レディネステストの結果としては、以下の通りであった。

| | | |
|---|-----|------|
| 数を正しく数え、5ずつまとめることができるか。 | 正答率 | 100% |
| 5を単位として、いくつ分あるかを分かっているか。 | 正答率 | 79% |
| 「1あたりの数」と「いくつ分」に着目して問題場面をとらえ、答えを求めることができるか。 | 正答率 | 100% |
| 10とび、5とび、2とびなどの数の系列が分かっているか。 | | |
| ①10とび | 正答率 | 84% |
| ②5とび | 正答率 | 89% |
| ③2とび | 正答率 | 79% |

(未習内容)

かけ算の意味が分かり、問題文から場面をとらえ、立式して答えを求めることができるか。

| | | |
|---------|-----|-----|
| ①立式する | 正答率 | 37% |
| ②答えを求める | 正答率 | 47% |

かけ算九九を知っているか

正答率 74%

この結果から、数を正しく数え、5ずつまとめることや、「1あたりの数」と「いくつ分」に着目して問題場面をとらえ答えを求めること、10とび、5とび、2とびなどの数の系列がよく理解できていないことが分かる。そこで、10とび、5とび、2とびのまとまりについての定着を図り本単元の指導に入りたい。

(3) 指導にあたって

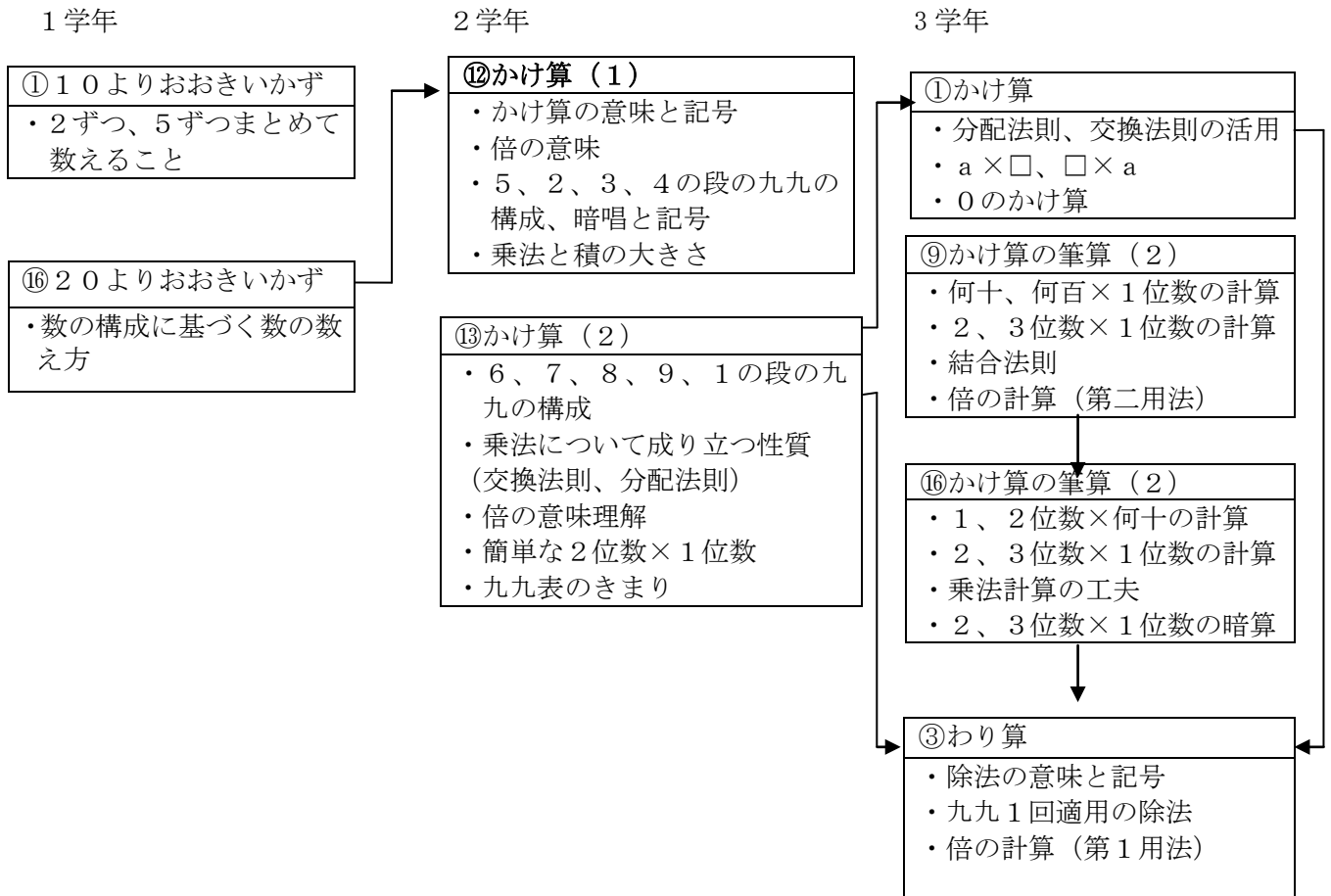
本単元の指導にあたっては、最初に、遊園地の絵から、それぞれの乗り物1台に乗っている人数が違うことに気付かせ、同じまとまりに着目してそれぞれの乗り物の全部の数を求めればよいことに気付かせたい。次に、「(1つ分の数) × (いくつ分) = (全部の数)」ということが、乗法の式になることを知らせる。単位とする大きさを明確にし、「○の□つ分」ととらえさせるために、おはじきを用いた操作活動を取り入れたい。また、乗法の意味の理解を確実にするために、乗法の場面をおはじきや式で表す活動にも取り組ませたい。そして、乗法の答えは同数累加で求められることを理解させ、いろいろな場面を乗法の式に表し、同数累加で答えを求めさせたい。さらに、身の回りから、乗法で全体の個数を求められる場面を見出し、乗法を実際の生活の中で活用していく活動に取り組ませたい。

第2小単元では、第1小単元の乗法の意味の学習を基に、5の段、2の段の九九に取り組ませるが、最初に、5の段の九九を構成する学習をさせたい。また、児童が意欲をもって取り組めるようにするために、九九カードを活用したり、ゲームを取り入れたい。次に、2の段の九九の構成、暗唱の練習についても、5の段と同様に行いたい。

第3小単元では、5、2の段の九九の構成を基にして、3の段、4の段の九九の構成をする学習をさせたい。最初に、3の段の九九を構成する学習を行い、3の段の九九の暗唱練習をし、適用問題に取り組ませたい。次に、乗法の性質を用いて、4の段の九九を構成し、暗唱の練習、適用問題に取り組ませたい。さらに、「1つ分の数」が問題文の最初に出ている問題とそうでない問題を与え、それぞれから「1つ分の数」を見出し、式に表すことで、乗法の意味を確かめたい。また、乗法の意味理解を深めるために、絵や日常生活の中から乗法の式になる場面を見つけ、式に表し交流させたい。

本単元の算数的言語活動①では、既習の内容を算数コーナーに掲示しておき、児童が課題に気付けるようにしたい。また、既習の内容の活用の仕方を交流し合い解決方法の見通しをもって自力解決に取り組ませるようにしたい。また、算数的言語活動②では、アレイ図や自分の考えた式を使って、友だちに説明できるようにしていきたい。これによって、児童の数学的な思考力の向上、確かな理解を図りたい。

(4) 教材の関連と発展



3 単元の目標

- 乗法の意味について理解し、それを用いることができるようにする。

4 単元の評価規準

| 算数への 関心・意欲・態度 | 数学的な考え方 | 数量や図形についての 技能 | 数量や図形についての 知識・理解 |
|--|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 乗法のよさに気付き、ものの全体の個数をとらえるときに、乗法を用いようとしている。 | <ul style="list-style-type: none"> 累加の考えや乗数と積の関係などを基に、乗法九九の構成の仕方を表現しようと考えている。 | <ul style="list-style-type: none"> 乗法が用いられる場面を絵や図、言葉、式で表すことができる。 乗法（5、2、3、4の段）を構成し、確実に唱えることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 乗法が用いられる場合や乗法九九について知り、乗法の意味について理解している。 乗法に関して成り立つ性質（乗数が1ずつ増えるときの積の増え方や交換法則）を理解している。 |

5 指導と評価の計画（全25時間）

| 時 | 目 標 | 算数的言語活動①② | 評価規準・評価方法（◎全員○補充） |
|---|--|---|--|
| 1 | かけ算 | | 9 時間 |
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> プロローグ p, 2の絵を掲示し、遊園地の入り口付近で整列した人とばらばらの人の人数を数えることを通して、全体の数量を求めるときの数えやすさに気付き、興味・関心を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> 絵を見て、乗る人数の違いや台数の違いを考える。 ①既「おはじきを並べること、（2人ずつ）（4人ずつ）と数えること」 ②数量を「1つ分の数」の「いくつ分」ととらえ、説明し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> 関◎「いくつ分」ととらえるとよいことに気付き、数えようとしている。（問題の解決状況の分析） 考◎数量を「1つ分の数」の「いくつ分」ととらえ、説明している。（調べたり、発表したりする様子の観察、練習問題の解決状況の分析） |
| 2 | | | |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> 「1つ分の数」「いくつ分」の関係の場合に乗法が用いられることを知り、乗法の意味を理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> 汽車に何人乗っているか考える。 ①既「（1つ分）（いくつ分）を基にすること」 ②乗り方について、並べたおはじきを基に話し合い、「1つ分の数」「いくつ分」「ぜんぶの数」を説明し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> 技◎具体物のまとまりに着目して、乗法の式に表すことができる。（学習シートの記述の分析や学習活動の観察） 知◎乗法は1つ分の数の大きさが決まったときに、そのいくつ分かにあたる大きさを求める場合に用いられることを理解している。（調べたり発表したりする様子の観察、練習の解決状況） |
| 4 | | <ul style="list-style-type: none"> 場面を見て、「1つ分の数」や「いくつ分」「ぜんぶの数」を意識しながらかけ算の式を考える練習をする。 | |
| 5 | <ul style="list-style-type: none"> 乗法の場面をおはじきや式で表す活動を通して、乗法の意味の理解を確実にする。 | <ul style="list-style-type: none"> かけ算の式から、その場面をおはじきで表したり、並んだおはじきからかけ算を考えたりする。 ①既「（1つ分の数）や（いくつ分）かけ算の式」 ②並べたおはじきをかけ算の式を対応させて、説明し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> 技◎乗法が用いられる場面はおはじきや式で表すことができる。（練習問題の解決状況の分析） |
| 6 | <ul style="list-style-type: none"> 乗法の答えは被乗数を乗数の数だけ累加して求められることを理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> 1箱に6個ずつ入っているお菓子が4箱で何個かを考える。 ①既「（6個ずつ）（4箱）」 ②$6 \times 4$の答えの求め方は、たし算でもできるかを説明し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> 知◎乗法の答えは、被乗数を乗数の数だけ累加して求められることを理解している。（調べたり発表したりする様子の観察、練習の解決状況） |

| | | | |
|--------------|---|--|---|
| 7 | ○倍の意味を知り、ある量の何倍にあたる量を求めるときも乗法を用いることを理解する。 | ・3cmの2つ分を2倍ということを知り倍はかけ算の式になることを考える。 ①既「1つ分の数のいくつ分」 3×2 ②倍が表していることは何か、テープの図を基に説明し合う。 | 知 ○倍の意味を知り、ある量の何倍かにあたる量を求めるときも乗法を用いることを理解している。(調べたり発表したりする様子の観察、練習問題の解決状況の分析) |
| 8 | ○身の回りから、乗法で全体の個数を求められる場面を見出し、簡潔に表現できることよさを実感する。 | ・学校の中で、かけ算の式であらわせそうな場面を考える。 ①既「(1つ分の数)(いくつ分)」 ②それぞれ見つけた物を「1つ分の数」「いくつ分」を押さえてかけ算の式になっているか考え、立式が2通りあるものについて両方の見方を説明し合う。 | 技 ○身の回りから、乗法が用いられる場面を見出し、言葉や式で説明している。(練習問題の解決状況の分析) |
| 9 | ○学習内容を適用して問題を解決する。 | ・「力をつけるもんだい」に取り組む。 | 技 ◎学習内容を適用して、問題を解決することができる。(練習問題の解決状況の分析) |
| 2 5の段、2の段の九九 | | 6 時間 | |
| 10 | ○5の段の九九の構成の仕方を理解する。 | ・5の段のかけ算九九の構成の仕方を考える。 ①既「(1はこ5個ずつ)を基にすること」 ②5の段の九九の構成の仕方を考え、説明し合う。 | 技 ○5の段の九九を構成することができる。(練習問題の解決状況の分析) |
| 11 | ○5の段の九九を確実に唱え、適用することができる。 | ・5の段の九九を暗唱し、唱える練習をする。 ①既「5の段のかけ算の式」 ②一の位は5、0、5、0となっていることを説明し合う。 | 技 ◎5の段の九九を確実に唱えることができ、それを用いて問題を解決することができる。(練習問題の解決状況の分析) |
| 12 | | ・5の段の九九を用いて問題を解決する。 | |
| 13 | ○2の段の九九の構成の仕方を理解する。 | ・2の段のかけ算九九の構成の仕方を考える。 ①既「5の段のかけ算九九、アレイ図を基にすること」 ②2の段の九九の構成の仕方を考え、説明し合う。 | 考 ◎2の段の九九の構成の仕方を基に、2の構成の仕方を考え説明している。(問題の解決の状況の観察やノート記述の分析) 技 ○2の段の九九を構成することができる。(練習問題の解決状況の分析) |
| 14 | ○2の段の九九を確実に唱え、適用することができる。 | ・2の段の九九を暗唱し、唱える練習をする。 ①既「2の段のかけ算の式」 ②一の位は2、4、6、8と2とびになっていることを説明し合う。 | 技 ◎2の段の九九を確実に唱えることができ、それを用いて、問題を解決することができる。(練習問題の解決状況の分析) |
| 15 | | ・2の段の九九を用いて、問題を解決する。 | |
| 3 3の段、4の段の九九 | | 8 時間 | |
| 16 本時 | ○3の段の九九の構成の仕方を理解する。 | ・3の段のかけ算九九の構成の仕方を考える。 ①既「5、2の段のかけ算九九、アレイ図を基にすること」 ②3の段の九九の構成の仕方を考え、説明し合う。 | 考 ◎5、2の段の九九の構成の仕方を基に、1つ分がいくつあるか考え、3ずつ増えていることに着目して、アレイ図とかけ算の式を比べながら、3の段の構成の仕方を説明している。(問題の解決状況の観察やノートの記述の分析) 技 ○3の段の九九を構成することができる。(練習問題の解決状況の分析) |

| | | | |
|------|---|---|--|
| 17 | ○3の段の九九を確実に唱え、適用することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・3の段の九九を暗唱し、唱える練習をする。 ①既「3の段のかけ算の式」 ②一の位が、5、2の段の九九のように規則性があるか考えながら、3の段の構成の仕方を説明し合う。 | 技 ◎3の段の九九を確実に唱えることができ、それを用いて問題を解決することができる。(練習問題の解決状況の分析) |
| 18 | | <ul style="list-style-type: none"> ・3の段の九九を用いて、問題を解決する。 | |
| 19 | ○4の段の九九の構成の仕方を理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・4の段のかけ算九九の構成の仕方を考える。 ①既「3の段のかけ算九九の構成、アレイ図を基にすること」 ②4の段の九九の構成の仕方を考え、説明し合う。 | 考 ◎乗法について成り立つ性質を用いて、4の段の九九の構成の仕方を考え、説明している。(問題の解決状況の観察やノートの記述の分析) 技 ◎4の段の九九を構成することができる。(練習問題の解決状況の分析) |
| 20 | ○4の段の九九を確実に唱え、適用することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・4の段の九九を暗唱し、唱える練習をする。 ①既「4の段のかけ算の式」 ②アレイ図を使って、4の段の構成の仕方を説明し合う。 | 技 ◎4の段の九九を確実に唱えることができ、それを用いて問題を解決することができる。(練習問題の解決状況の分析) |
| 21 | | <ul style="list-style-type: none"> ・4の段の九九を用いて、問題を解決する。 | |
| 22 | ○問題作りによる、式の読み方や式に表現することを通して、5、2、3、4の段の理解を深める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・式の読み方や、5、2、3、4の段の理解を深める。 ①既「5、2、3、4の段の九九」 ②「1つ分の数」や「いくつ分」が分かれば、式を作ることができることを説明し合う。 | 考 ◎乗法を用いられる場面をとらえ、言葉や式で説明している。(問題の解決状況の観察やノートの記述の分析) 知 ◎被乗数、乗数の意味を理解している。(練習問題の解決状況の分析) |
| 23 | | | |
| ●まとめ | | 2 時間 | |
| 24 | ○学習内容を適用して問題を解決する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「力をつけるもんだい」に取り組む。 | 技 ◎学習内容を適用して、問題を解決することができる。(練習問題の解決状況の分析) |
| 25 | ○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「しあげのもんだい」に取り組む。 | 知 ◎基本的な学習内容を身に付けている。(問題の解決状況の分析) |

6 本時の指導

(1) 目標

3の段の九九の構成の仕方を理解する。

(2) 指導にあたって

【既習の内容を活かした解決方法を考えるための指導の工夫(仮説1)】算数的言語活動①

本時の学習で活用する既習の内容は、①「1つ分の数」×「いくつ分」＝「全部の数」というかけ算の意味、②累加による積の求め方、③おはじきやアレイ図の操作、④5の段や2の段のかけ算の構成である。そこで、5、2の段は、「1つ分が5」や「1つ分が2」であったことを算数コーナーの既習の内容から想起させる<手立て1>。そして、既習の内容と本時との違いを確認する<手立て2>。さらに、各自の見通しを交流し合ってから一人学びをさせたい<手立て3>

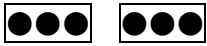
【解決した結果を説明し合い、考えを深める指導の工夫(仮説2)】算数的言語活動②

ペアで説明し合うことによって、どんな方法で3の段のかけ算九九を作ったか自分の考えを明らかにしたり、お互いの方法のよさやよく分からなかったことを考えさせたい。また、その後、全体でいくつかの解決方法を交流させ、簡単に答えを出すために、「前の答えに3をたす」という方法の良さに気付かせたい<手立て2、3>。

(3) 評価規準

| 観 点 | 十分満足できる | 努力を要する子どもへの手立て |
|-----------|---|--|
| 【数学的な考え方】 | 5、2の段の九九の構成の仕方を基に、1つ分がいくつあるか考え、3ずつ増えていることに着目して、アレイ図とかけ算の式を比べながら、3の段の構成の仕方を説明している。 | 5、2の段ではいくつずつ増えたか、「1つ分の数」や「いくつ分」を問いかけて掲示物や教科書から思い出させ言わせる。 |
| 【技 能】 | 前の答えに3をたすという方法で、3の段の九九を構成することができる。 | 5、2の段ではいくつずつ増えたか、「1つ分の数」や「いくつ分」を問いかけ、3をたすことを一緒に行う。 |

(4) 展開

| 段落 | 学 習 活 動 | ・指導上の留意点 *支援 評価 (◎全員○補充) |
|-----------|---|---|
| つかむ 5分 | <p>1 問題文を読み、題意をとらえる</p> <p>いくつあるでしょうか。</p> <p>プリン<small>の絵</small></p>  <p>2 学習課題を設定する</p> <p>3のだんの九九をつくりましょう。</p> | <p>・絵を見て、九九に必要な情報を読み取る。</p> <p>・1箱に3個あることをおさえ、3の段の九九をつくるという課題意識をもたせる。</p> <p>・児童の言葉を活かしながら課題設定する。</p> |
| 見通す 7分 | <p>3 課題の見通しをもつ</p> <p>《算数的言語活動①》仮説1</p> <p>(1) 解決の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1箱で 3個だ。 $3 \times 1 = 3$ ・2箱で、$3 \times 2 = 6$。6個だ。 ・3ずつ増えると思う。 ・5の段、2の段の九九と同じように考えて、3ずつをたしていく。 ・前の答えに3をたす方法で。 <p>期待する児童の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習の内容・・・1つ分の数、いくつ分、5、2の段の九九の構成 ・活用のポイント・・・3ずつふえる。 | <p>・5、2の段の九九の構成の仕方を算数コーナーで確認し、本時の学習課題と同じところや違うところを明らかにする。＜手立て1＞</p> <p>・既習の2の段の「1つ分の数」を想起させ、$3 \times 1 = 3$や$3 \times 2 = 6$の式や答えを全員で確認して、3ずつ増えていることに気付かせる。＜手立て2＞</p> <p>・5、2の段の九九の構成をしたときのように、調べる方法を決めてから一人学びに入る。＜手立て3＞</p> |
| | <p>4 一人学びをする</p> <p>見通しをもとに答えを求め、答えが正しいか確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5の段、2の段のときと同じように3をたしていく。 ・前の答えに3をたす。 | <p>・自分の決めた方法で解いてみる。</p> <p>・机間指導で、児童それぞれの解決状況を把握し、一人学びしたことを発表する児童を決める。</p> <p>*滞っている児童には、5、2の段ではいくつずつ増えたか、「1つ分の数」や「いくつ分」を問いかけて掲示物や教科書から思い出させ言わせる。</p> |

| | | |
|---|---|--|
| <p>確 か め る 25 分</p> | <p>5 互いに学び合う <<算数的言語活動②>>仮説2 一人学びの結果を話し合い、全体でそれぞ れの考えの共通点を見つける。</p> | <p>【説明で使わせたい用語】 1つ分は3 4つ分 3ずつ増えている かけられる数 かける数</p> |
| | <p>期待する児童の反応</p> <p>活用のポイント・・・5、2の段の九九の構成を基にして説明している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ $3 + 3 = 6$、$3 + 3 + 3 = 9$ のようなたし算で考えたことを説明している。 ・ $3 + 3 = 6$、$6 + 3 = 9$ のように前の答えに3をたした考えを説明している。 <p>(1) 一人学びの結果を説明する。 (ペア)</p> <p>(2) 考え方のよさを交流し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3 をたしていく。 $3 \times 1 = 3$ $3 \times 2 = 6 \leftarrow 3 + 3 = 6$ $3 \times 3 = 9 \leftarrow 3 + 3 + 3 = 9$ $3 \times 4 = 12 \leftarrow 3 + 3 + 3 + 3 = 12$ ・ 前のこたえに3をたす。 $3 \times 1 = \triangle$ $3 \times 2 = \boxed{6} \leftarrow \triangle + 3$ $3 \times 3 = \boxed{9} \leftarrow \boxed{6} + 3$ $3 \times 4 = 12 \leftarrow \boxed{9} + 3$ $3 \times 5 = \boxed{15}$ <p>(3) 話し合った解決の方法で確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① $3 \times 5 = \boxed{15} \dots\dots 12 + 3$ ① $3 \times 6 = \boxed{18} \dots\dots 15 + 3$ ② $3 \times 7 = \boxed{21} \dots\dots 18 + 3$ ③ $3 \times 8 = \boxed{24} \dots\dots 21 + 3$ ④ $3 \times 9 = \boxed{27} \dots\dots 24 + 3$ | <p>・ 事前にペアを決め、話す順番を決めておく。</p> <p>・ ペアで説明し合うことにより、どんな方法で3の段のかけ算九九を作ったか自分の考えを明らかにし、お互いの方法の良さやよくわからなかったことを考えさせたい。<手立て2></p> <p>考◎5、2の段の九九の構成の仕方を基に、1つ分がいくつあるか考え、3ずつ増えていることに着目して、アレイ図とかけ算の式を比べながら、3の段の構成の仕方を説明している。(ノートや説明の観察)</p> <p>・ 全体でいくつかの解決方法を交流させ、前の答えに3をたす方法が簡単に答えを出せるというよさに気付かせる。<手立て3></p> <p>・ 3×4の答えを基に、3×5の答えを全員で考えさせることによって、「前の答えに3をたす方法」が簡単に答えを出せるというよさに気付かせる。</p> <p>・ 前の答えに3をたす方法で計算させる。</p> <p>*一人学びの様子からつまずきが予想される児童に、絵と式を見せながら指導する。</p> <p>技○3の段の九九を構成することができる。(問題の解決状況の分析)</p> |
| <p>ま と め る 3 分</p> | <p>6 まとめをする</p> <p>3のだんの九九は、前のこたえに3ずつたしていけば、作ることができます。</p> | <p>・ 児童の言葉を活かしながらまとめをする。</p> |
| <p>広 げ る 5 分</p> | <p>7 学習を振り返る。</p> | <p>・ 今日の学習で、次の学習に活かせると感じたことなどを学習感想としてノートに書かせる。</p> |

(5) 板書計画

もんだい

いくつあるでしょうか。

かだい

3のだんの九九をつりましょう。

まとめ

3のだんの九九は、前のこたえに3ずつたしていけば、作ることができます。

絵プリンの絵



活用すること

1つ分の数は・・・3

3の段の九九

解決の方法

$$3 \times 1 = 3$$

$$3 \times 2 = 6$$

①3をたしていく。

②前のこたえに3をたす。

アレイ図



①3をたしていく。

$$3 \times 1 = 3$$

$$3 \times 2 = 6 \quad \leftarrow 3 + 3 = 6$$

$$3 \times 3 = 9 \quad \leftarrow 3 + 3 + 3 = 9$$

$$3 \times 4 = 12 \quad \leftarrow 3 + 3 + 3 + 3 = 12$$

②前のこたえに3をたす方法で。

$$3 \times 1 = \triangle$$

$$3 \times 2 = \boxed{6} \quad \leftarrow \triangle + 3$$

$$3 \times 3 = \boxed{9} \quad \leftarrow \boxed{6} + 3$$

$$3 \times 4 = \boxed{12} \quad \leftarrow \boxed{9} + 3 \quad \left. \begin{array}{l} \leftarrow \\ \leftarrow \end{array} \right\} 3 \text{ずつふえる}$$

$$3 \times 5 = \boxed{15}$$

前の答えに3をたす方法でやってみよう

$$3 \times 5 = \boxed{15} \quad \leftarrow 12 + 3$$

$$3 \times 6 = \boxed{18} \quad \leftarrow 15 + 3$$

$$3 \times 7 = \boxed{21} \quad \leftarrow 18 + 3$$

$$3 \times 8 = \boxed{24} \quad \leftarrow 21 + 3$$

$$3 \times 9 = \boxed{27} \quad \leftarrow 24 + 3$$